

荒川ふるさと文化館で古文書(コモンジョ)講座がの講座の教材が天保二年(1830)のころコツ通りの飯盛旅籠屋主人伊勢屋庄八さんが故郷へ送った手紙でした。その時代のコツ通りの商店等の家並地図が足立区北千住の織畑家(現在は眼科医)の古文書より見ることが出来ます。伊勢屋はコツ通りの西側、天王様から数えて17〜18軒目にあり、隣りは自身番屋と示されています。

現在の小寺米店周辺同図中には飯盛旅籠が14軒(130軒中)ありました。伊勢屋は家持(自分の土地、家屋持ち)で間口が五間もある、なかなかの店構えでした。ほとんどの飯盛旅籠が地借(ジガリ)、店借(タナガリ)でした。庄八さんの経営手腕がいかに上手であったか、またいかに金がかかるといえる商売であったかが教材の中から知ることができました。

なぜ、コツ通りにこのように飯盛旅籠が多かったかという旅人が泊まることもあったのでしょうか、飯盛女を目当てに近在の遊び野郎達が一夜の歡を味合おうと遊びにやってくる所だったからです。

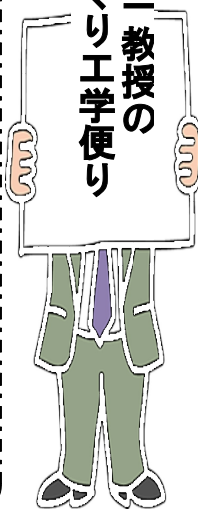
☆六郎が語る☆
南千住一口話
特別編 第20回

ちなみに幕末頃の大工さんや左官屋さん等の手間賃が日当40文で下男が年休3両、下女が2両2分ということをお頭においてそのころの値段をみますと、太夫が75匁(2両、品川女郎が10匁、飯盛女が20文〜50文、「よたか」が24文、ちなみに「かけそば」が16文、お銚子1本が12文でした。

宿場の飯盛女といっても実際は遊女でしたから、幕府は定められた岡場所(遊び場所)以外に遊女を置くことを禁じました。しかし、町の貴重な財源でしたので、洗濯女とか下働き女とかの名目で遊女を増していたようです。天保14年(1843)には戸数2370軒、人口一万人を数える程の賑わいでした。特に南千住は、大橋をはさんで近在郷の特産品の集散地でしたので、大変なにぎわいで色々な商売屋が立ち並び繁昌していたようです。

2002年3月の原稿を再掲載致しました。

吉田喜一教授の
ものづくり工学便り



俳優國村淳さんは高専出身

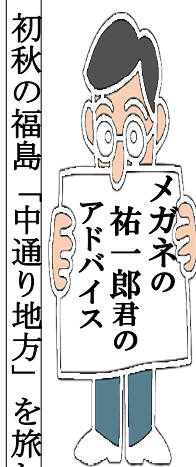
産技高専名誉教授 吉田喜一

國村準さんは1955(昭和30)年、熊本県八代市生まれだそうだが、小学校2年の時に大阪市へ移った。小さい頃から自動車に憧れ、特にエンジンが好きで、大阪府立高専へ進みエンジニアを目指したが、高専を中退して演劇の世界へ進んだ。

1997年、河瀬直美監督が第50回カンヌ国際映画祭で、日本人初のカメラ・ドールを受賞した『萌の朱雀』では、田原孝三役で映画初主演した。

2006年には、NHK連続テレビ小説『芋たこなんきん』で、主人公の夫『カモカのおっちゃん』を演じ、代表作の1つとなる。最近では、『日本沈没』、『ミナマタ』で各種の役柄を好演している。

高専出身者は必ずしもエンジニアだけでなく、いろいろな分野で活躍している。直木賞作家の安部龍太郎さんは久留米高専です。航空高専出身者では、フリークライマーの平山ユージさん、漫画家の稲田浩司さんが有名です。



消費生活
アドバイザー
佐藤祐一郎

初秋の福島「中通り地方」を旅して

こんにちは、メガネのサトウ4代目です。先月の休業日に、帰りで福島県を旅してきました。

東北新幹線を郡山駅で下車し、売店にて知る人ぞ知る名物駅弁「海苔のり弁」を買いました。駅前からレンタカーで岳(だけ)温泉へ向かいます。幹線道路の国道4号から横の県道に入ると、美しい黄金色の田んぼが広がっており、稲刈り作業の真っ只中。道路脇で栗の直売を発見したので車を止め、栗農家のおばさんとしげし立ち話の後、栗畑を見せて頂きました。買い求めた栗は小ぶりながら、一袋にたっぷり入っていて大満足です。岳温泉に着し、足湯に入って良い気分になった後、脇のベンチで駅弁の昼食タイム。噂通り、手作りの丁寧な味と盛り付けで、こちらも大満足でした。

岳(だけ)温泉から車で坂道を登って、安達(あだ)太良山(たらやま)登山口の駐車場に向かいます。実は、冬のスキー場がある関係で、手前の薬師岳まではロープウェイで景色を見ながらお手軽に登れるのです。山頂駅付近を散策すると、小さな広場に「この上の空がほんとの空です」と書かれた木標が立っています。この日は生憎の曇り空で、高村智恵子が眺めていた青空ではありませんでした。うっすら色づき始めた木々の向こうに、福島盆地と信夫山(しのぶやま)が見えました。雄大な景色です。この後、再び車を走らせ、お墓参り、それから親戚宅を訪問。鳥のさえずりや虫の鳴き声を聞きながら、久しぶりの和やかなひと時を過ごしてから帰京しました。帰りの新幹線はグリーン車を奮発したので(特割で半額でしたが!)、極めて安楽に移動できました。

恒例!来年の当店オリジナル世界遺産カレンダーが出来上がりました。メガネご購入で、ご希望のお客様に配布中です。(数量限定、無くなり次第終了です。セール情報はホームページをご覧くださいませ。



■メガネのサトウ ■ <https://megane-sato.com>

南千住5の43の13【東京新聞並】

TEL 03(3806)4930

★休業日のご案内★

10月〜11月 ……毎週火曜日は、休業日です。

★営業時間のご案内★

平日(月〜金) ……午前9時〜午後6時30分

土休日 ……午前10時〜午後5時